

日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社ト同香地（電話六三〇番）印刷所 常盤毎日印刷所

常盤新聞

第一部金貳錢 廣五號十二 告字詰一行 料五十五錢 日刊日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三五 日祝日空 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

刊夕日六月一十

當る十一月六日より（毎夕午後五時開演）

曾我廼家五兵衛一派

上演 狂言
 笑劇 月給日
 舊劇 太鼓の音
 社會劇 父歸る
 人情劇 天下の小頭
 喜劇 家の寶

初御目見得なれば
特別觀劇料
 大人 二十錢
 小人 十錢

於 **聚樂館**

十二月七日寫眞替プログラム

◇松竹名作集の秘玉篇 原作……志麻沙良夫
 監督……小石榮一 主演……林長二郎決死努力

仇討 **劍の血煙** 全
 助演 風間宗六、若月孔雀、千早晶子、水守宗之助
 茅將三郎、父の仇討に出て劍の掟のため悲涙極なき仇討劍史

◇日活太秦超大作現代劇 原作脚色……小林正
 監督……森田吐夢 主演……廣瀬恒美、瀧花久子
 聲樂家（獨唱）お馴染の松下京子嬢出演
 活劇 **太平洋兒** 全
 助演 沖悦二、佐久間妙子、大崎史郎其他
 我等の海洋兒が金華山沖、神戸西の宮海洋を中心として見るも愉快な捕鯨の實況を撮り入れ廣瀬が独自の演技を發せしむる本年秋季大作の一

◇日活作品……原作脚色……異木卓二郎、
 監督……辻吉郎 撮影……松村清太郎
 美劍史……澤田清主演
 異說 **金四郎半生記** 全
 助演……葛木香一、横山運平、高瀬實、徳川良子
 反逆者金四郎が戀と自由を得る迄の半生記である奉行の兒と生を享けた金四郎は虚偽と横暴とに生る武七階級を極度に嫌ひ人生的な光明に向つて進んで行く近來稀な日活大作である

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町田町 電話五二二三番

土曜日曜 日活平館 電四六六

祝七週年

小田炭礦株式會社
 萩原鑛業所

古河炭礦
 好間鑛業所

住吉屋本店
 電話一五九番

坂田藤助
 磐城平町二丁目
 電話二二八番

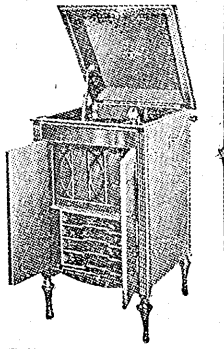
衛生岡田牛乳舍
 平町電話五一番

小松崎洗張本店
 二丁目
 電話七七〇番

市原醫院
 院長 市原卯太郎

の子書讀
 頭番な實忠

柏屋染物店
 阿部 傳六
 平町材木町



何んでも揃ふ
 買いいい店
 コロムビア三幸堂
 平二丁目



時計 常盤屋
 指輪
 電三三九

母シン儀
 本日告別式の際
 は遠路に不拘御
 參列の榮を辱ふ
 し難有乍略儀以
 紙上御厚禮申上
 候
 昭和四年十二月六日
 大河原金之助

体温器 寒暖計 電四〇番

無駄排除と
 消費節約の優劣

寄書

人或は云はん、總ての生産は消費を最終の目的とすと稱するも今日消費せしめて明日の計を爲し、今年消費するものを節約して將來の爲めに貯蓄するは大に可ならずや、即ち消費の爲めに生産せずして貯蓄の爲めに生産するは思慮ある人の爲すべき所ならずやと、然れども單に現在の消費を節約して他日の用に貯蓄する

だけならば蠅蟻も之を爲し、猿狐も之を爲す、人類と蠅蟻猿狐の相異は其貯蓄せる所のものを資本化するや否やに在り、之を生産するや否やに在り、昆虫や鳥獸は如何に伶俐なるも其貯蓄を生産化するを知らず、唯人類のみ、就中進歩したる國民は必ず直接又は間接に他人に之を貸與して、生産の用に供せしめて其利殖を圖ることを爲すのである、斯の如くにして經濟の發展、國富の増加は愈々促進せらるゝものである、故に貯蓄のみを考慮して其生産の方面を無視する者は蠅蟻の經濟思想を出でざるものと云ふ可きである、徒に消費節約を政治の眼目とせば、今日の國民の消費數量は歐洲戰前の國民の消費程度に減縮するを可とすべく、更に一層之を減縮して鎖國時代の國民消費程度に縮すれば益々可なるの理である、然れども斯の如きは社會の進運經濟界の發展に逆行するものであつて、其立論の頑冥不條理なる識者の一顧に價せざる所である、否政治經濟の目的とする所は、國民全體をして永久に最大多量の消費を可能ならしむるにあることは三尺の童子も理解し得る所である。

迷兒の郵便物が 毎月四五通に

殊に年末や年始に多い 平局長からの注意

平郵便局に於て受取人の住所不明の爲め配達不能になつた郵便物及び差出人不明の爲め返戻不能になり保管の後焼棄に附するは四月以降の分左記の如く

- ▲四月、五十五通▼五月四十八通▼六月、三十通▼七月、三十通▼八月、四十通▼九月、十六通▼十月、三十八通▼(内小包は二、三に過ぎぬ)

七名を引連れ 朝鮮人願出

朝鮮慶尚南田郡東海西壯佐里生れ千學路(三)は今迄働いて居た足尾銅山が不景氣で思はずと云ふので妻や子七名を引連れ磐城炭礦に來り坑夫となり一日一圓宛を貰つて居たがハンマで右腕を怪俄して到底働けぬ爲め朝鮮に歸らんと本日平署人事相談所に出頭旅費支給を願出た

大金を拾ふ 泥酔して置き忘れ 千二百圓

三日午後九時半常磐線湯本驛止りの上り旅客列車内に十圓紙幣五圓紙幣混せ千二百五十圓が散在してゐるのを驛員が発見し同驛においてこれを保管して置いたが四日石城郡湯本町松栢館



家魔欄

大根のはりく漬 なるべく太い大根を選びまして水洗し四つ割どなし干加減の過度未成は共に製品

失業者救済の爲め 授職の相談をする

石城地方における失業者は労働者のみに止まらず各地の失業者が多くなり平職業紹介所に毎日

一人平均 職を求めにくるものありこれが紹介斡旋には係官も層一層の努力を拂ひつゝあるも殆んど全国的の事業の縮小にたられ求職者の希望を容認すること出來ず折角求めにきた人々を氣の毒にも満足を得ぬことを得ない始末で困りに困りきつて居るに鑑み同所では

屠畜数増す 去月中の統計

平屠畜場の去月中の屠畜数は牛豚馬等合計二百三十九頭にて内譯は牛十九頭豚百七十一頭馬四十九頭で合計に於て前年度の屠畜數百七十一頭に比し六十八頭の増加である

川前農産品評 石城郡川前村農會にては農事改良の目的を以て來る十三日桶賣小學校に於て農産物品評會を開催する由

水道濫用防ぎに 共同栓にもメートル制

平町役場では水道の濫用を防ぐため共同栓にメートル制を實施すべく計画中で實施後は一日少くも四五十石の濫用を防げるが料金の徴収法を如何にするかにつき研究中でこれが解決出來れば來年度から實施すると

大炭層發見 住吉坑を擴張

石城郡内郷村磐城炭礦では同村住吉に新斜坑を開鑿する事となり大正十五年以來

移出米検査 去月の成績

平米穀検査所に於ける去月中の移出米検査成績は左記

石城出品梨 一等に入賞

去る一日から五日迄仙台市に開催された宮城縣農會主催東北六縣北海道園藝共進會に石城郡より出陳せるは合計百廿六點であつたが其入選せるは卅八點であつて主なるもの左記の如くである

- ▽一等賞(梨)平窪村鈴木重次郎、同村金成庄助▽二等賞(梨)好間村鯨岡忠

野球準決勝 七十七と白銀

七十七中支店対白銀クラブの野球試合は九日午後二時から平第一小學校に於て準決勝戦を行へ優勝チームにはマルカ書房寄贈の銀カブを授與すると

重、平窪村薄葉竹松、同村根本久光▽三等賞(葱)平町鈴木良平外卅一名

中堅農民見學 石城郡中堅農民講習生は既記の如く四日仙台市に至り園藝共進會、キリンビール工場其他を見學し同日歸郷した参加者卅五名であつたと

十月廿九日一丁目にて一圓八十錢在中の黒草菖口▽新川町海生熊吉君は十月廿七日新川町にて金儲懷中時計を拾得此程夫々平署に届出づ

募集 文藝其他投稿を募集します

眼鏡 トキハヤ 蓄音器 平一

品名	量目	價格
白米	一等一キロ	二四五
白米	二等一キロ	二四五
白米	三等一キロ	二四五
白米	四等一キロ	二四五
白米	五等一キロ	二四五
白米	六等一キロ	二四五
白米	七等一キロ	二四五
白米	八等一キロ	二四五
白米	九等一キロ	二四五
白米	十等一キロ	二四五
白米	十一等一キロ	二四五
白米	十二等一キロ	二四五
白米	十三等一キロ	二四五
白米	十四等一キロ	二四五
白米	十五等一キロ	二四五
白米	十六等一キロ	二四五
白米	十七等一キロ	二四五
白米	十八等一キロ	二四五
白米	十九等一キロ	二四五
白米	二十等一キロ	二四五
白米	二十一等一キロ	二四五
白米	二十二等一キロ	二四五
白米	二十三等一キロ	二四五
白米	二十四等一キロ	二四五
白米	二十五等一キロ	二四五
白米	二十六等一キロ	二四五
白米	二十七等一キロ	二四五
白米	二十八等一キロ	二四五
白米	二十九等一キロ	二四五
白米	三十等一キロ	二四五
白米	三十一等一キロ	二四五
白米	三十二等一キロ	二四五
白米	三十三等一キロ	二四五
白米	三十四等一キロ	二四五
白米	三十五等一キロ	二四五
白米	三十六等一キロ	二四五
白米	三十七等一キロ	二四五
白米	三十八等一キロ	二四五
白米	三十九等一キロ	二四五
白米	四十等一キロ	二四五
白米	四十一等一キロ	二四五
白米	四十二等一キロ	二四五
白米	四十三等一キロ	二四五
白米	四十四等一キロ	二四五
白米	四十五等一キロ	二四五
白米	四十六等一キロ	二四五
白米	四十七等一キロ	二四五
白米	四十八等一キロ	二四五
白米	四十九等一キロ	二四五
白米	五十等一キロ	二四五

明日の天気

南東の風 曇り所により驟雨

平町人事

- ▲出生
 - △立町五 鶴山潔氏二女品子
 - △五丁目六 諸橋久四郎氏長男文士
 - △久保町三八 武石常衛門氏三男登
- ▲婚姻
 - △立町九 踏踏工大塚欣一郎氏(三)
 - △石城郡東村 吉田スサ(二)